

a 学校教育目標	自ら学ぶ、心豊かな生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	[ミッション](自校の使命) ○ 社会のために役立つとする志を持つ生徒の育成 ○ 地域・保護者の期待に応える学校
			[ビジョン](自校の将来像) ○ 伝統や文化の継承を軸に成長する学校

評価計画				自己評価				改善策		学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善策	l 評価			m コメント
					達成値	達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	基礎学力の定着	・家庭学習の習慣化や支援が必要な生徒への補充学習を行うことで、基礎学力の定着を図る。	・定期テストの知識・技能の観点において、50%以上正答する生徒の割合(R6:70.2%)	75%	59.8%	68.0%	90.7%	B	・前回より8.2ポイント上がっている一方で、取り組みの結果が出ていると考えられるが、目標値に達することはできなかった。家庭学習の進捗については提出率が上がったことも達成度の向上につながっている。授業に向かう姿勢も全学年とも向上している。	・学習意識や学習習慣を高めるために、生徒に充実感をもたせるための向上心を高める取り組みを行う。そのために、補充学習で学習することにより「できる」体験をさせる。	○			・3年生の標準学力調査の結果の良さに驚きました。入学時から落ち着いて、学力もある学年だったと説明されていたが、基礎的・思考の向上・学習集団の育成といった3年間の取組の成果が表れていると思いました。1年生や2年生もそれぞれの課題に努力され、学年の中での伸びが見られることがわかりました。
				70%	63.9%	66.0%	94.3%	B	・学年ごとに見ると、3年生は85.5%と目標値を達成できていた。しかし、1年生は54.3%、2年生は58.3%と目標値を大きく下回った。	・学習集団を育成する取り組みを行う。例えば、「教えあい」や「協働学習」を授業で仕組み、達成感を持たせる。そのために、教職員の研修を充実させる。	○			・家庭学習の大切さについて明確に説明し、できたらやりがちなことでも、家庭学習を習慣化させる。授業中にインプットを感じているところ。・学習意欲、学習習慣への取組効果は出てきていると思います。学力の向上のためには、学習の仕方がわかることが必要だと思います。R80が学習行動や成果を客観視することにつながっていると思えます。
				95%	86%	89.1%	93.8%	B	・授業の終わりに、目標に対応したまとめや振り返りをR80で行っている。ICTの効果的な活用と、R80を活用した振り返りを行う。	・R80によって振り返りを充実させ、思考力や表現力を育成する。そのために、教職員同士のR80をどのように充実させるかの研修を行う。	○			・小学校でも毎年で学力に課題がある。次年度はフック研もあるので、学力向上においても連携していきたい。
豊かな心・健やかな体	自己肯定感の向上	・自己の役割を認識し、繰り返し成功体験を積める授業や行事等を行う。	・i-checkの散布図Iにおいて、AB領域に分布する生徒の割合(R6:未実施)	70%	94.1%	77.8%	111.1%	A	・1、2年生において、前回より下がっており、学校生活に慣れ他人と自分を比較したり、うまくいかないことに対応できなかったりする生徒が出てきていると考えられる。3年生は上がっている。	・3年生は上がっていることから、本校での取り組みの結果が出ていると考えられるので、1、2年生においても、粘り強く寄り添い、指導し、3年間を通して結果が出るように取り組む。・3年生をモデルに、郷土芸能や運動会などでリーダー育成し、自己肯定感を育てる。	○			・2年生の成長ぶりが心に残りました。2年間の苦労が実を結びつつあるのだなと大変うれしく思います。またその変化は3年生のがんばり具合が劇的になっていると聞いて、学校全体がいっしょに喜びました。次年度へつながっていると感じました。・学校行事や日々の活動を通して、学級のまとまりや生徒同士の関係性が深まってきていることを実感しております。これも先生方の日頃の丁寧な指導と関わりのおかげと感じます。その変化は3年生の成長と、学校生活の充実を促していると感じました。・i-checkの散布図Iの活用が生かされていると思う。
				95%	79.7%	98.5%	103.7%	A	・郷土芸能や合唱の発表に向け、リーダーを中心に練習に取り組んだ。上級生が下級生に積極的に指導する姿も見られ、他学年との交流の中で、自治的集団としての質も向上している。・実行委員会では、オープニングムービーの企画から作成まで生徒が手がけるなど、生徒が互いに協力し、自発的に活動する様子が見られた。	・生徒が主体となって今後行事等を進めていけるようリーダー育成を継続して行う。・アンケート結果では、肯定的意見が大半を占め、自身の良かった点や改善点についても分析できていた。行事の様々な場面で見られた積極的な行動を普段の授業に取り入れ、学校生活とより結びつけていきたい。	○			・自分自身と比べると、場面が少しもあつた「やれなかった」「気持ちよかつた」「ほつた」「役立った」など、ポジティブならえ方が生まれるのだと思います。・体力向上は小学校も課題となっている。小中連携してやっていきたい。i-checkのAB領域に分布する生徒が減少しているが大丈夫か。個への支援が必要では。
				70%	65.2%	70.5%	100.7%	A	・授業において、準備運動中にランメニューを取り入れ、継続して行った。また、その内容についても様々なバリエーションを組み合わせて、意欲的に取り組んでいた。結果として、持久力においては67%の生徒が前回の記録を上回った。しかし、自重を支える筋持久力・体幹の弱さが目立つ生徒が多かった。・ランメニューに反して、ペダルの柔軟運動を継続して行った。時間をかけても丁寧に指導し、結果として、柔軟性においては74%の生徒が前回の記録を上回った。	・筋持久力・体幹を強化するための体幹トレーニングを準備運動後の補強運動に取り入れる。また、その行方についても、ランメニュー同様、様々なバリエーションを取り入れ生徒が意欲的に取り組めるよう工夫する。	○			
信頼される学校	自校に誇りを持ち、地域に信頼される学校づくりの推進を図る。	・地域や社会と関わりを持ち、自治活動を推進する。	・「獅子太鼓の継承は、自分と地域の関わりを考える機会になっている」に対して、肯定的評価の割合(R6:94.0%)	95%	94.5%	96.9%	102.0%	A	・みつわ祭りの発表を経て、目標値を上回ることができた。上級生から下級生への技術の指導がスムーズに行われており、地域の方の指導もいたいただきながら、継承者としての自覚ははぐくんでいきたい。	・学校運営協議会でも話題になったが、学校においても地域においても、行事や伝統の継承が人数の減少により難しくなっている。少ない人数でも受け継いでいける内容や方法の案を提案などを探り、今後も充実発展させられるようにしたい。	○			・獅子太鼓を文化祭や市の記念行事などで発表することで達成感や自信につながっていると思います。そういう中学の姿が幸崎の人たちの誇りとなっていることをさらに感じる取組にできたらいいですね。・先生方が健康で楽しく生徒と向き合うことが一番大事です。・日々の授業に加え、様々な業務や調整にご尽力されていると感じました。限られた条件の中で学校運営を行う苦労も多いと思いますが、今後地域や保護者との連携から信頼される学校づくりが進められることを期待しています。・みつわ祭りは生徒の成長に大きな影響を与えていると思います。・小学校より遅くまで電気がついていいるが大丈夫か。小学校も職員間で差があるので、お互い気をつけたい。
				95%	93.6%	100.0%	105.3%	A	・10月から1月の間は、毎月100%達成することができた。行事に向けて早めの起業を、直前に慌てることなく行事を迎えることができた。日々の学方の定着に向けての業務も勤務時間内に行うことができた。	・来年度三原市は、45時間以下を100%、年間平均を30時間以下、年間360時間という実践目標掲げている。管理職も含め、職場全体で業務改善に取り組み、生徒との関わり時間を確保し、丁寧な指導に取り組みたい。	○			

[I:自己評価 評価]
A:100% (目標達成) B:80% (ほぼ達成) <100
C:60% (もう少し) <80 D:(できていない) <60

[II:学校関係者評価 評価]
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。